

「出会いを育てる」

校長 吉田 敦

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。思い返せば、皆さんが入学された3年前は、依然として社会はコロナ禍にあり、皆さんの高校生活も多くの制限を受けながらのスタートでした。テレビや新聞では、連日全国の感染者数が報道され、学校もまだ、先の見えない不安と緊張の中で活動を続けていたことが遠い昔のようにも思い出されます。しかし、そのような状況であっても、明るく堂々と胸を張って高校生活をスタートした皆さんは、日々周囲への思いやりと工夫を重ね、素晴らしい3年間の「糧高ライフ」を創り上げてくれました。あらためて感謝します。我々教職員は、皆さんに助けられ、力をもらい、頑張ることができました。本当にありがとうございました。

さて、晴れのご卒業に際して、私から皆さんに贈る言葉は、『「出会い」を大切に育てよう。』です。

皆さんが糧原高校で過ごされた高校時代は、長い人生の中においては、各々の性格や考え方、指向などがほぼ固まってくる時期ではあります。各々は絶えず変化（成長）を続けていきますので、出会いということでは、出会った瞬間から気が合って生涯の友となることもあります。最初は良好な関係であったにもかかわらず時間が経つにつれてどこか合わなくなつて離れていったり、場合によ

つては些細なことで不要な仲違いをしてしまつたりもします。ただ、これらはどれも全く自然なことで、良いも悪いもありません。誰しもが経験することで、数学や英語と同じ高等学校における学習活動の一つです。学習して身に付けたものは、その後を生かせば良いのです。

皆さんはこれから、今までは比べものにならないくらい広い世界に飛び出していくことになります。当然、「出会い」の数も増えていくでしょう。しかし、その中には、何もなかったかのように気づかず通り過ぎてしまうようなものもあれば、最初はあまり自分にとって都合がいいとは思えないものもあると思います。しかし、見過ごしたり、反射的に背を向けたりする出会いの中にも、必ず何物にも代えがたい関係性に発展するものが含まれています。「今はなくてはならないとても良好な関係だけれども、第一印象は最悪だった。」という話はよく聞きますし、私にもそんな経緯のある大切な友人がいます。おそらく、「出会い」というものは、最初からおあつらえ向きに出来上がったものややってくるようなものではないし、指一本の操作で簡単に手に入るようなものでもないのだと思います。

「出会い」と聞くところか偶発的で受動的な響きがあります。その本質は必然的で能動的なもの、主體的なものなのです。「出会い」をなくてはならない

貴重な「つながり」に育てられるかどうかは、自分自身の在りようにかかっているのです。皆さんには、一つでも多くの出会いが『偶然ではなく、必然だった』と言えるような、多くのかけがえない「つながり」に恵まれた豊かな人生を歩んで欲しいと思います。

それでは、『「出会い」を見逃さず、見逃さず、また、見誤らずに、大切に育てる。』にはどうすれば良いのでしょうか……。

上手くは言えませんが、そうするには、皆さん自身が、『自分の夢を実現するため、理想の自分になるため、目の前のすべてのことに真摯に向き合い、毎日を本気で生きる』『挑戦を続ける』『……ということのかな？』と想っています。

皆さんの未来に多くの素晴らしい出会いがあることを心から願っています。